

第2章 立地環境別防犯 対策のポイント





侵入盗被害想定を読み方

侵入盗の被害想定は、代表的な侵入経路、周辺環境等を想定し、その対策ポイントを、周辺環境と建物環境の視点から考察し、防犯対策プランをご提案しています。

被害の想定

1 周辺環境

被害に遭う要因は、その家自体だけでなく周辺環境にもあります。被害想定現場の周辺状況を地図で表し、現場状況や侵入盗の侵入経路、侵入手口など、なぜ被害に遭ったかを環境面からも分析・考察します。

2 侵入経路

なぜ侵入盗に狙われ、侵入されたかを、想定した犯行経路をたどって分析します。

3 防犯対策のポイント

想定事例における防犯対策の具体的なポイントと防犯対策におすすめの商品を紹介します。被害に遭う前と対策後の違いを図解で分かりやすく説明します。



住宅の立地環境別被害想定分類

ここでは、住宅の立地環境別に、4タイプに分類しました（下表参照）。
実際のプランニングの際、具体的なイメージがしやすく、侵入窃盗の行動から防犯のポイントを掴むことに役立ちます。

立地環境分類表

住宅密集 タイプ	住宅密集地に立地しているタイプ。 まわりの住宅は、築年数の長い家が多く、狭い路地やブロック塀・植栽などの身を隠しやすい環境が死角となっています。	File No.	ページ
		File No.1 File No.2	12～15
周辺空き地 タイプ	住宅地ではあるが、住宅周辺に駐車場などの空き地環境が隣接しているタイプ。 駐車場などから住宅内の様子が観察しやすく、下見や不在確認が容易に行なえる環境となっています。	File No.	ページ
		File No.3 File No.4	16～19
共同住宅 タイプ	アパートなどの共同住宅が隣接しているタイプ。 共同住宅が家の裏側に建てられ、家の裏側は人の出入りが多く、不審者の見分けが困難で、共同住宅の住民は昼間不在が多く周囲の監視性が低い環境となっています。	File No.	ページ
		File No.5	20～21
オープン 外構タイプ	敷地境界に囲いのない新興住宅地に立地しているタイプ。 周辺から敷地内の様子が見えやすく、敷地内へ侵入が容易な環境となっています。	File No.	ページ
		File No.6 File No.7	22～25

File No.1 住宅密集タイプ

被害の想定

買い物で外出のスキを狙う。路地から裏手にまわり窓ガラスを割って侵入。

■周辺環境

- ①前面道路は大通りから1本入った道で片側交互通行のため、人通りが少ない。
- ②路地が通り抜け可能で、住民以外出入りができる。
- ③隣家と隣りあわせで人目に付かず、見つけにくい。

■侵入経路【図A参照】

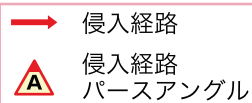
- 細い路地をまわり、家の裏側から敷地に侵入。

■侵入口 【図B参照】

- 家の裏手側にある掃き出し窓。

■侵入手口

- ガラス破り。



(周辺図)



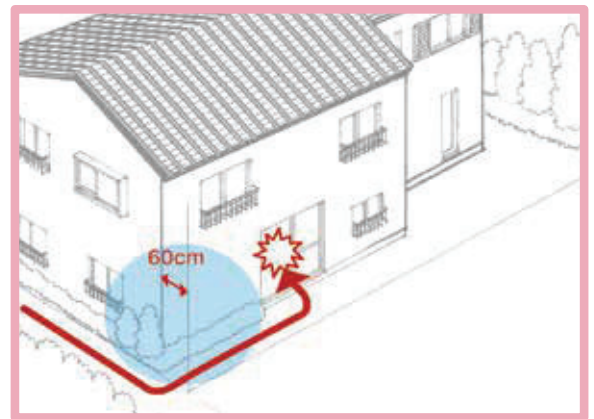
図A：路地から裏手に



〈要因〉

- ・敷地境界部はゲート以外に対策が施されていない。
- ・伸縮ゲートは設置されているが、開放状態になっている。
- ・植栽が密集しており、死角ができやすい。

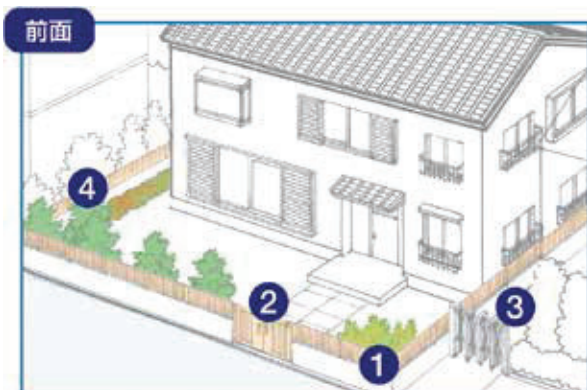
図B：掃出し窓から侵入



〈要因〉

- ・被害住宅と隣家の間が60cmと非常に狭く、人目に付きにくい。

防犯対策のポイント



ハードで対策

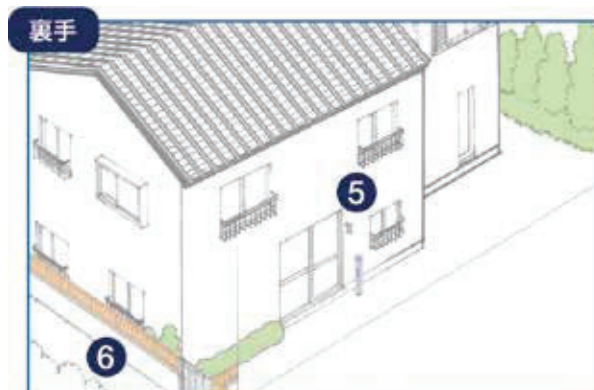
- ①境界をフェンスなどで囲う。
- ②門扉を付けて侵入動機を減少させる。

環境で対策

- ③伸縮ゲートは閉める事を習慣化する。
- ④植栽の間隔を広げ見通しを良くする。
植栽の手入れを定期的に行い、高くて視線を遮る植栽は低くする。



◇フェンス◇



ハードで対策

- ⑤窓を補助錠付きサッシに替えたり、ガラスを防犯合わせ複層ガラスに取り替えるなど窓の防犯機能を強化し、ガラス破りによる侵入を防ぐ。
家の裏にセンサー付き照明を取り付ける。

環境で対策

- ⑥近隣との連携（路地の通り抜けの制御）を図る。



◇防犯合わせ複層ガラス◇



◇窓の補助錠◇



◇センサー付き照明◇



◇防犯センサー付きカメラ◇